

1 単元 国の政治のしくみ

2 目標

現代社会の中の身近な話題や事例を手掛かりとしながら、「国会・内閣・裁判所」のしくみや役割などについて関心をもたせ、意欲的・自主的な学習を進める中で、意欲的に現代社会について学習しようとする。
(社会的事象への意欲・関心・態度)

法に基づき、個人を尊重し自由と権利を保障する民主的な政治のあり方と課題について、さまざまな立場から多面的・多角的に考察することができる。
(社会的な思考・判断)

新聞記事や図書などを利用して、「国会・内閣・裁判所」のしくみや役割などを具体的に調べ、また、三権分立が国民の政治参加と深く関わっていることを、発表したり説明したりすることができる。
(資料活用の技能・表現)

「国会・内閣・裁判所」の三権それぞれに対して国民の政治参加の機会が保障され、地位や役割、相互関係のあらましを理解することができる。
(社会的事象についての知識・理解)

3 指導にあたって

(1) 生徒の意識・実態

1 裁判員制度を知っている。	はい26人	いいえ12人
2 裁判員制度について説明できる。	はい8人	いいえ30人
3 裁判の様子を見たことがある。(テレビや図書等も含む)	はい28人	いいえ10人
4 裁判に興味があり、深く理解したい。	はい10人	いいえ28人

事前の意識・実態調査によると、裁判員制度を知っている生徒は多いが、内容を理解している生徒は少ない。また、裁判の様子を見たことがある生徒が多く、その雰囲気はとらえているようである。しかし、裁判に興味がある生徒は少なく、自分たちには縁遠いもの、関わりの薄いものと考えている生徒もいるようである。

このことから、裁判のしくみややり方等を調査し、裁判員制度についてリーフレットやインターネットで調べる活動を通して、興味・関心を高めていきたい。また、模擬裁判を通して、裁判官・検察官・弁護士・裁判員などの具体的な働きや役割を演じることで、裁判についての理解を深めさせたい。

(2) 指導観

中学校学習指導要領解説社会編では、『「裁判員制度についても触れ」(内容の取り扱い)ながら国民の司法参加の意義について考えさせ、国民が刑事裁判に参加することによって、裁判の内容に国民の視点、感覚が反映されることになり、司法に対する国民の理解が深まり、その信頼が高まることを期待して裁判員制度が導入されたことに気付かせることが大切である。』と述べている。また、「現代の社会的事象に対する関心を高め、さまざまな資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。」とある。

そこで、現在、裁判員制度が実施される中、裁判官・弁護士・裁判員などの具体的な働きや役割について調査したり、模擬裁判を行ったりすることにより、現代政治や社会について積極的に学習するきっかけとしたい。

4 指導と評価の計画(9時間)

- 第1次 議会制民主主義と国会 国会のはたらき・・・2時間
- 第2次 行政と内閣 現代の行政・・・2時間
- 第3次 裁判所のはたらき・・・3時間

時	学習内容	関	思	技	知	評価規準と方法
3 本 時 3 / 3	<ul style="list-style-type: none"> ・法を守る裁判所 ・裁判の種類と人権 ・裁判員制度と裁判について考えよう 					<ul style="list-style-type: none"> ・法の役割と裁判所のはたらき、三審制のしくみについて理解している。 (ワークシート) ・裁判の種類と裁判官、検察官、弁護士の役割を理解している。 (ワークシート) ・裁判の意義と役割について考え、裁判に関わる人々の立場になって考えている。 (ワークシート,発表)

- 第4次 三権の抑制と均衡・・・1時間
- 第5次 単元のまとめ・・・1時間

5 本時の指導

(1) 目標

生徒一人一人が自分の意見をもって評議を行い、「判決」を導き出すことによって、裁判員制度への参加意義について考えることができる。

(2) 準備・資料

ワークシート 参考資料(刑法, 量刑のヒント)

(3) 展開

(・生徒の反応や思い 支援 (評) 評価)

展開	学習内容及び活動	形態・資料	教師の支援()と評価((評))
気と付ら くえる	1 学習内容を確認する。 2 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 模擬裁判に参加し, 裁判のしくみを考えよう。 </div>	一斉	教室の机の配置を法廷と同様の配置にしておく。 将来, 実際の裁判に参加する可能性があることを理解させる。
見取 通り す組 む	3 模擬裁判を行う。 ・事件のあらましを知る。 4 裁判の争点を確認する。 ・それぞれの立場の人の主張について, 自分の考えをワークシートに記入する。	参考資料 個人 ワーク シート	実際の法廷と同じ進め方で裁判を行う。 模擬裁判のキャストを所定の位置に着かせ, シナリオに沿って裁判を開始する。 傷害罪についての検察官と弁護人の意見の相違を明らかにし, 自分の考えをもてるようにする。 (評) 検察官と弁護人の意見の相違を考え, 自分の考えをもっている。 (ワークシート)
	5 判決を発表する。	一斉 ワーク シート	裁判官役や裁判員役の生徒にも「判決」を発表させ, その理由も述べるように助言する。 結審ではなく, あくまでも自分が裁判長であるならという考えで傍聴していた生徒も考えを述べるようにする。
振り 返る	6 本時のまとめをする。 ・模擬裁判の感想をワークシートに記入する。	ワーク シート	模擬裁判を通して, 裁判員制度に対する考えをまとめるようにする。また, 裁判員として裁判に参加するようになった際の心構えや司法に対する考えをまとめている生徒の内容を全体に知らせるようにする。
生 か す	7 次時の課題を確認する。		(評) 裁判員制度への参加意義について考えている。 (ワークシート) 本時の学習活動での良かった点や優れた意見を称賛し, 次時の活動につなげるようにする。

社会科ワークシート

組

1 判決は・・・？

有罪

無罪

<理由>

2 それぞれの立場の人の主張についてあなたはどのように思いますか。
被告人の陳述及び行動について

弁護士の主張について

検察官の主張について

3 裁判員制度について考えをまとめよう。

裁判記録用紙

係	名前	
検察官の陳述		
弁護人の陳述		
有罪		無罪
< 理由 >		